

週刊新社会

8月7日



2018年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

今週号の本紙2面「道
しるべ」はおさなみ前
議員が書いています。

とんとんみずき橋裁判和解決着 敗訴的和解で橋の再築に暗雲

とんとんみずき橋の裁判は2日、和解が成立した。それに先立ち、野田市は31日の臨時議会に東京高裁での和解案を示し、議会はそれを承認した。野田市は今月末に住民説明会を開くが、橋の再築は白紙という。

ゼロか1,700万円か二者択一

高裁判長長の和解案が出たがその内容は都市再生機構（UR）が解決金として野田市に1,700万円を支払う義務があるというもの。4億円余の請求と1,300万円余の裁判費用をかけてこれだけかとの思いがあるが、野田市がこれで和解しなければ、市の全面敗訴しかないというものだった。

臨時議会では共産党が関心を

持っている地元への事前説明がなかったという理由で反対したが、賛成多数で可決した。

なお、市は和解の事前説明をしたとしても、これまでの住民との経過はとにかく再築してくれとい

今回の和解決着は市の主張が全面的に退けられた中で、ゼロより

専門家でないとの逃げは無責任

臨時議会の総務委員会審査で小室美枝子委員（市民ネットワーク）から、今回の事案を教訓化して今後の市政運営に臨むべきではないかとの質問が出たが、答弁はそれを受け止めたと思えないものだった。

しかし、地裁判決で区画整理事業で橋を作るとき、ボンゴシ材を選んだことに野田市は同意しているとされた。つまり、専門家ではないと逃げられないということだ。

これは現在進行形で問題が続々出てきているエアコン工事でも同

じことが言える。エアコンの専門家がいないので設計事務所に任せただけで市や教育委員会は逃げられるのが。

事務所の設計見積もりの根拠に目を通していたのか。目を通していたら少なくとも今日の状況を招かず、いずれ過大見積りで税の無駄遣いと追及されることはないはずだ。責任を持って市民のために仕事をしていると言い切れるのか、9月議会や監査委員に説明できるのだろうか。

とんとんみずき橋 住民説明会

8月25日・土 13時半～15時
26日・日 10時～11時半
会場はいずれも南部梅郷公民館

うものであり、和解の事前説明は意味がないというものだった。

市は9月議会の補正予算にとんとんみずき橋で残っている木製の構造物の撤去費用を組む予定だが、その後については市全体の予算や政策の優先性等を検討しなければならず、白紙との立場だ。まずは地元説明会での反応が重要となる。

市の主張はすべて採用されず

は1,700万円のほうが良いとの判断だ。

これは地裁での和解案（2016年11月18日）で予見されるものだった。裁判長が撤去費用の半額1,400万円の和解勧告を出した時の見解は、当時ボンゴシ材を使ったことや、市に移譲した時の注意義務違反はもちろん、野田市への譲渡は無償であり、売買での注意義務違反も問えないとして、野田市の主張は全面的に否定される見解が示されていた。

そして地裁判決は野田市の全面敗訴となり、高裁で逆転するのは困難と思われていた。当時の根本崇市長の思い込みと強気が裏目に出たと言われても仕方がない。

民間委託でコスト低減・サービス維持？ 官のおごりでゴミ収集に問題が

民間委託はコストが削減できる。しかし、市民サービスは落とさない。

このような考えで野田市は民間委託を行政改革の名の下に進めてきた。それが保育士不足を招き、待機児童や隠れ待機児童を生んできた。右の写真は野田市の保育士募集のチラシ。必死になって探しても臨時保育士や、民間委託先の保育士、そして私立の保育士を集めるのは困難を極めている。

6月議会ではごみ収集でも問題が起こっていたことを共産党議員から追及されている。

現在野田市はごみ収集 10 コースのうち 6 コースを民間委託している。委託している南部地区で収集が遅いとの苦情が出ている、雇用実態はどうなのかと質問された。

担当部長は人件費や燃料代等で契約しており、雇用実態は把握していないと答弁する一方、南部地

区の収集の遅れは市も把握しており、今年度から委託内容を見直し、一部を分離して再任用職員（野田市の定年後の「再雇用」職員）を活用して対応していると答えている。

つまり、安くて同じサービスというのは虫のいい話、もっと言えば行政のおごりだということ。しかし、社会全体がそう染まっていることが未来がないということに気がつかなくてはならない。

原爆の絵展 はじまる 「平和」について考え声を上げる

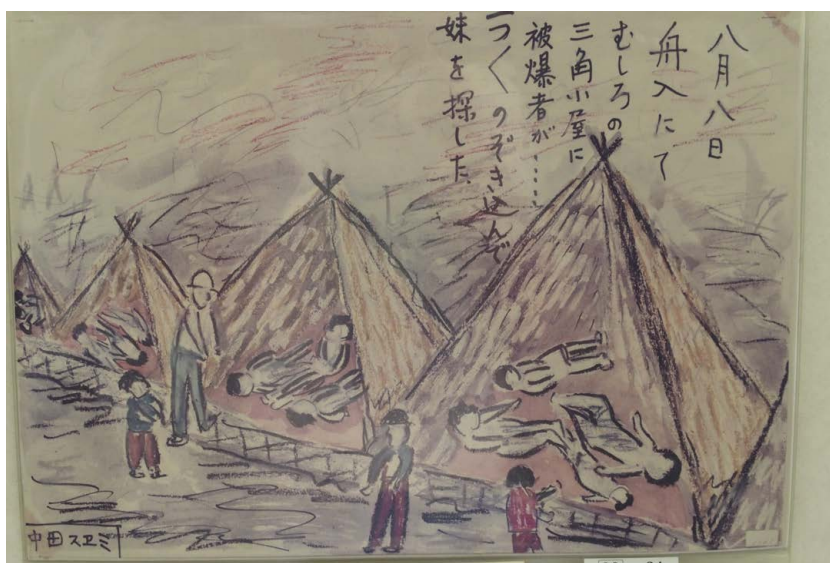
15 回目となり、野田市でもすっかり恒例となった原爆の絵展が 6 日、櫛のホール 3 階のギャラリーで始まった(11 日まで、左下写真)。

戦争と原爆の惨禍を、二度と過ちを繰り返さないと国民と世界に約束した日本社会だが、政府はそれを守る証しの憲法九条を骨抜きにし、ついには核兵器禁止条約にも背を向けている。

「核の傘」で守られているということはどういうことか。いざとなったら核兵器を使って「日本」を守るということだ。

そのためには日米同盟をますます強化しなくてはならないとの論理を国民に刷り込む。そしてそれには常に「仮想敵国」を作り続ける。朝鮮戦争の終戦などともなると平和を妨害する。

所詮、安倍総理のいう平和は支配層側の平和でしかないと考えたほうがよい。



今回展示の市民の描いた原爆の絵から紹介（上図）

絵中の文「八月八日 舟入にておしろでできた三角小屋に被爆者が・・・一つ一つのぞき込んで妹を探した。中田スエミ」

